令和8年度

学 力 向 上 プ ラ ン

【後期】



上尾市立平方北小学校

上尾市立平方北小学校 学力向上プラン「グランドデザイン」

学校教育目標
「確かな学力・豊かな心・健やかな身体の育成」
めざす学校像
唯一無二の煌めき
児童 First　職員 First　保護者 First　地域 First

学校課題研究主題

「It's Okay
みんなちがっていい」
～無限の可能性を育成するために～

学力・学習状況調査の結果

R8 全国学力・学習状況調査	R8 埼玉県学力・学習状況調査	R7 上尾市立小・中学校学力調査
・国語の学力スコアは全国平均値に比較的近いものの、算数は大きく下回っている。 ・国語では「言葉の特徴や使い方に関する事項」の正答率が低いが、記述式の問題の正答率は高くなっている。 ・算数では「数と計算」における根拠の説明問題や、「図形」「データの活用」の正答率が特に低い。	・学力レベルの平均は、５年は算数が３レベル伸びており、６年は国語が４レベル伸びている。 ・４年・５年の自己肯定感は、県の平均と同等である。 ・４年の柔軟的方略や認知的方略の値は県の平均を上回った。５・６年は学習方略の数値が埼玉県と比較して低くなった。	・国語・算数の平均正答率について、３・４年は全国平均程度で、５・６年は全国平均を下回った。 ・国語では、文章の構成を考えて、伝えたいことを明確にして書くことに課題がある。 ・算数では、基礎的な計算力は身についてきているが、文章問題に合った立式をして答えを求めることに課題がある。

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
○基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ○教科の特性に合わせた技能を習得する力	○多角的な見方から思考する力 ○論理的に書いたり話したりする力	○進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ○目標を立て、実現に向けて努力する力

学力向上のための授業改善

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
・計算や漢字学習に関して繰り返し練習を行うことで、正確さと速さを高める。 ・ICT 端末の共有機能を活用することで、自分や他者の考えを可視化し、知識の再構成やスキルの向上を図る。 ・AI ドリルを活用し、児童一人一人の習熟度に応じて個別最適化した学習を行う。	・児童が主体的に課題を解決する授業展開を工夫する。 ・場に応じた表現を行うための話型を示し、基礎的な表現力を育成する。 ・各教科等で書く活動を多く取り入れ、意図が相手に伝わるように記述する力を育成する。	・児童の経験や興味・関心を活かした課題設定を行う。 ・児童一人一人の実態に合わせた目標設定と支援により、全員に達成感を味わわせる。 ・ＩＣＴ端末を効果的に活用し、自ら調べたり意見を共有・推敲したりする活動を通して、主体的に学ぶ意欲と表現力を高める。

本校の特色ある取組		家庭教育との連携
○あいさつ運動の推進 ○豊かな体験活動の推進 ○道徳教育の充実 ○特別支援教育の充実 ○小中一貫教育の推進	○学校ＩＣＴの活用推進 ○読書活動の充実 ○英語活動・外国語活動・外国語科の充実 ○チームによる教科担任制	○授業と家庭学習との連続性 ○家庭学習を通した保護者との連携 ○学校応援団の充実による家庭・地域との連携

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（低学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ②教科の特性に合わせた技能を習得する力	③多角的な見方から思考する力 ④論理的に書いたり話したりする力	⑤進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ⑥目標を立て、実現に向けて努力する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①授業や家庭学習で音読を継続し、読む力の向上を図る。 ②朝学習や授業で条件に合った短文作りをし、文を構成して書く力を身につけさせる。	
算数	①、②	①オンラインドリルやプリント等を活用し、復習を繰り返し行わせる。 ②具体物や半具体物の操作など、数学的活動を十分に行わせる。	
生活	③、④	③具体的な活動や体験を通して、身近な生活に関わる見方・考え方を養う。 ④活動や体験したことを豊かな言葉で表現できるよう、語彙を増やす。	
音楽	②	②学習の初期に漠然と抱いた「この曲は楽しい」などの曲の印象を起点として、リズムや構成などの違いに着目して聴き深めさせる。	
図画工作	⑥	⑥並べたり、つないだり、積んだりするなどの行為や活動を通して、つくりだす喜びを十分に味わわせる。	
体育	③、⑤	③友達のよい動きを擬態・擬音語で表現させて相手に伝える。 ⑤きまりを守って意欲的に楽しく運動させる。	
英語活動	②	②ＡＬＴやＨＲＴとジェスチャーを入れながら、あいさつをしたり、歌を歌ったり、ゲームをしたりさせる。	
特別の教科　道徳	③	③役割演技を取り入れながら、自分に置き換えて考えたり、友達の考えを聞いたりして、自分の考えをもたせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（中学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ②教科の特性に合わせた技能を習得する力	③多角的な見方から思考する力 ④論理的に書いたり話したりする力	⑤進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ⑥目標を立て、実現に向けて努力する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、④	①授業の中で、互いの考えを伝えるなどして話合いを行い、話す・聞く力を身につけさせる。 ④内容の中心を明確にし、段落を意識して文章を書く力を付けさせる。	
社会	②、⑥	②資料から必要な情報を読み取ったり、考えたりしたことを伝え合ったりしながら、学習問題を解決させる。 ⑥施設の見学などの体験的な学びにより、人々の生活との関連を理解させる。	
算数	①、②	①ドリルやプリントを使って学習内容を反復し、既習事項の定着を図る。 ②ＩＣＴ機器を活用し、数学的活動を楽しませる。	
理科	②、④	②結果の予想を立てて観察・実験を行わせる。 ④実験や観察の結果から考察したことを自分の言葉でまとめさせる。	
音楽	②	②学習の初期に感じた「この曲は明るく生き生きとしている」などの気付きを起点として、音楽を特徴付ける要素について豊かな言葉で表現できるよう、聴き深めさせる。	
図画工作	⑥	⑥混ぜたり重ねたり、切ったり組み合わせたりするなどの行為や活動を通して、つくりだす喜びを十分に味わわせる。	
体育	④、⑤	④友達と互いに運動を見合い、動きのよさや課題を有効な言葉で伝え合わせる。 ⑤ルールを守り、場や用具の安全に留意し、運動の楽しさや喜びに触れさせる。	
外国語活動	③	③生活場面と関連させ、日本だったら・海外だったらという意識をもたせて英語活動を行わせる。	
特別の教科　道徳	③	②小グループでの話合いや役割演技等の活動を通し、学習に主体的に関わらせ、多角的な考えに触れ、自分の考えをもたせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

２　学力向上を図る取組

（１）各教科の授業における取組（高学年）

本校で身に付けさせる学力

知識及び技能の習得	思考力・判断力・表現力等の育成	学びに向かう力・人間性等の涵養
①基礎的・基本的学習内容を身に付ける力 ②教科の特性に合わせた技能を習得する力	③多角的な見方から思考する力 ④論理的に書いたり話したりする力	⑤進んで課題解決に取り組み、主体的に学ぶ力 ⑥目標を立て、実現に向けて努力する力

教科・領域	重点的に身に付けさせる学力	具体的な取組	成果
国語	①、②	①朝学習の時間等で、指定された言葉を使って短文作りをし、語彙力、書く力を高めさせる。 ②登場人物の相互関係や心情などについて、描写に着目しながら読み進め、読む力を高めさせる。	
社会	②、③	②自分の生活と結びつけながら学習を進め、課題を解決させる。 ③資料から必要な情報を読み取り、関連事項について自分の言葉で表現させる。	
算数	①、②	①継続的な計算練習により、計算技能を確実に身につけさせる。 ②ＩＣＴ機器を活用し、数学的活動を楽しませる。	
理科	③、④	③経験や既習学習内容を基にし、課題や予想について友達と話し合うなど、対話的な活動をさせる。 ④実験や観察の結果から考察したことを自分の言葉でまとめさせる。	
音楽	②	②学習の初期に捉えた「この曲はリズムに特徴がある」などの気付きを起点として、音楽を特徴付ける要素について豊かな言葉で表現できるよう、聴き深めさせる。	
図画工作	⑥	⑥見方や感じ方、形や色などの造形的な特徴に着目させ、つくりだす喜びを十分に味わわせる。	
家庭	⑤	⑤生活の中から課題を見いだし、その解決に向けた解決策の検討、計画、実践、評価、改善を一連の学習活動として行わせる。	
体育	⑥	⑥各種運動領域において、仲間と対話し協力しながら効果的にＩＣＴ機器を活用し、自分やグループの課題を見付けたり、解決させたりする。	
外国語科	②	②外国語だけでコミュニケーションをとる場面を作って会話をさせる。	
特別の教科　道徳	③	③話合い活動を通して、友達の意見を聞き入れながら、自分の生活を振り返って考えさせる。	

Ａ･･･取組の効果が十分に見られた　Ｂ･･･今後も課題として取り組む　Ｃ･･･取組を見直す

（２）教育活動全体を通じた取組

本校の特色ある取組	
○あいさつ運動の推進	・あいさつチェックを指標として、気持ちのよいあいさつを励行する。 ・児童会、保護者、地域の方々による登校時のあいさつ運動を定期的に行う。
○学校ＩＣＴの活用推進	・全ての教科・領域等においてデジタル教科書、ＩＣＴ端末、書画カメラなどのＩＣＴ機器を活用し、児童の意欲を喚起するとともに、視覚的に訴える学習を行う。
○豊かな体験活動の推進	・児童が自然に親しむ活動として、野鳥の森や学校ビオトープの活用を年間指導計画に取り入れる。 ・総合的な学習の時間に、ＳＤＧｓの視点を取り入れた課題を設定する。
○読書活動の充実	・月に１度読み聞かせの時間を確保し、本に親しむ姿勢を育てる。 ・学校図書館支援員による年間を通した学校図書館運営により、児童の読書への意欲を高める。 ・年２回（６月「読書まつり」・１１月「読書月間」）、目標をもって読書に取り組む機会を設ける。
○道徳教育の充実	・授業充実のため、工夫した発問・教材・教具の準備を進め、児童の心にひびく授業を行う。 ・年間を通して、授業研究・協議を行う。
○英語活動・外国語活動・外国語科の充実	・全学年の英語活動・外国語活動・外国語において、担任とＡＬＴとのティーム・ティーチングにより授業を進める。 ・ＨＲＴが積極的に英語で話す。 ・校内放送・掲示等で英語にふれる環境をつくる。
○特別支援教育の充実	・特別支援学級の児童との交流及び共同学習の推進を行う。 ・通常学級における特別支援教育の推進により、児童が自分の課題を知り、自分を活かせる教育を行う。
○小中一貫教育の推進	・中学校から本校への小中連携対応教諭の派遣による授業を通して、中学校への進学を円滑に行う。 ・大石南中学校区３校の教員相互の授業参観、合同研修会を行う。
○チームによる教科担任制	・チーム内での教科担任制を行い、教師の専門性を生かした指導を行うとともに、チーム内の児童理解について情報を共有し、一人一人の特性に応じたきめ細かな支援につなげる。
家庭教育との連携	
○授業と家庭学習との連続性	・国語や算数を中心に、授業での学習内容に関連した宿題を課し、基礎学力の定着を図る。「学年×１０分」の時間を目安とする。
○家庭学習を通した保護者との連携	・児童が自主的に行う家庭学習を推進し、家庭への協力を呼びかけ、保護者による支援や、家庭での体験的な学びにつなげる。
○学校応援団の充実による家庭・地域との連携	・家庭・地域に広く呼びかけ、学校応援団の登録を充実させるとともに、教育活動において積極的に活用していくことにより、家庭や地域の学校教育への参画意識を高め、人材を生かした教育を行う。